

# 千葉大学言語教育センター

## 公開講座

- テーマ：「英語の読み解き方」
- 対象：英語の先生方および高校生以上の一般の方々
- 募集人数：50名程度
- 日時：12月10日（土）、午後2:30-4:00
- 会場：千葉大学総合校舎A号館A201教室
- 後援：千葉県教育委員会
- 参加費：無料
- 講師：英語部門 教授 久保田 正人
- 申込方法：申込用紙（別紙）に必要事項をご記入のうえメールでお送りください
- 締め切り：12月6日（火）

### ■概要：

「私は千葉大学の学生です」というような意を英語で表そうとすると、これを I am a student of Chiba University. と書き誤る学生が後を絶ちません（学校名は適宜替えてください）。その原因はどこにあるかということ、student を「学生」という名詞で覚えているところにあるようです。「学生」と覚えていて何がいけないのかということ、動詞に由来する名詞形を、本来の動詞に戻すという作業を飛ばして、あたかもはじめから名詞のごとくに覚えているからです。student を「学生」とのみ覚えていれば、「千葉大学の学生」という日本語からは、a student of Chiba University（という誤った形）は出てきても、a student at Chiba University（という正しい形）は即座には出てこないでしょう。teacher を「教師」「教諭」といった名詞でのみ覚えている場合も同じ落とし穴にはまります。

ところが、student を「study している人」と動詞を仲介させる形で理解していれば、「千葉大学の学生」も「千葉大学で学んでいる人」となり、前置詞に of を使うことに違和感を持つようになるでしょう。もっと複雑な文、たとえば、Prolonged exposure of the item will result in rapid deterioration. のような文を理解しようとするときも、英語に熟達した人であれば、名詞形を動詞に戻して、もっとやさしい構文（主語や目的語がはっきりわかる構文）に言い換え、読み解いていることと思います。そういう基本形への言い換えにこそ、英語の読み解きのコツがあります。難しいことはありません。困ったら、基本形に戻す。それだけのことです。

この講座は、英語に関心のある一般の方々にも無理なく理解できるように、短い例文と平明な解説を心がけ、英語を専門とするの方々にも専門的な知識のいっそうの深化を促す内容とします。

# 2011 年度言語教育センター公開講座

## 申込用紙

以下の項目をコピーしてメールでお送りください。項目が箇条書きになっていれば書式は自由です。題名は「言語教育センター公開講座の申し込み」としてください。

■宛先：[千葉大学学生部普遍教育課](mailto:dcd3607(AT)office.chiba-u.jp)<dcd3607(AT)office.chiba-u.jp>

■締切：12月6日（火）

■問合せ：ご不明の点は[講師宛て](mailto:kubota(AT)faculty.chiba-u.jp)<kubota(AT)faculty.chiba-u.jp>にお問い合わせください。

受講に不安などあれば小さな

ことでも遠慮なくおたずねください。

■この募集要項は[言語教育センターのホームページ](#)にも掲載されています。

-----キリトリセン-----

千葉大学言語教育センター主催の公開講座に参加を申し込みます。

お名前： \_\_\_\_\_

ご職業またはお勤め先： \_\_\_\_\_

連絡先メールアドレス： \_\_\_\_\_

過去5回の講座の内容を公開しています。

[2006 年度公開講座](#)

[2007 年度公開講座](#)

[2008 年度公開講座](#)

[2009 年度公開講座](#)

[2010 年度公開講座](#)